

令和6年度 保育園の自己評価

評価 A:良い

B:一部検討を要する

C:改善を要する

項目	内容	評価	意見・改善策など
保育理念・目標	すべてのこどもについて、一人一人の存在とその人権を尊重した保育を行っている	A	こども一人一人の人権を尊重する保育については、引き続き研修と職員間で共有を進めていきたい
	子ども一人一人の特性や発達の課題に即した援助を行うようにしている	A	
	各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり、個々の発達にも留意したものを作成している	A	
	目標は、前年度の反省を生かしている	A	
保育について	指導計画は乳幼児の実態に即して作成している		こどもを中心として遊びを深めていくために、人的・物的環境の充実を図っていきたい
	保育指針に基づく援助・支援を適切に行っている		
	子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築いている		
	子ども達が日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている		
	身体的、精神的、情緒的発育や家庭環境及び食事習慣等、総合的に多面的に子どもの状態を把握している		
行事	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしている		
	行事については、計画・実践・評価・改善の体制をとっている		
食事	年齢に応じて食事を楽しむことができる工夫や配慮がなされている		安全に楽しく食事をするための見直しを行った
	子どもの年齢を考慮した食育計画で、保育士と栄養士の連携のもと、食育を実践しているか		
組織運営	職員間の連携が取れ、報告・連絡・相談ができ協働できる体制になっている		職員の気づきを生かし、改善につながっていることと改善につながりにくい事項もあり、今後も取り組みを続けていく
	職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっている		
	各種会議を適正かつ効率的に進めている		
	豊かな集団の育成を目指したクラス運営が進められ、各クラスの連携が円滑に行われている		

項目	内容	評価	意見・改善策など
	同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている		
保健・安全	避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している		ほけんだより・きゅうしょくだよりの発行や送迎時の交通安全について啓発を行った
	健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っている		
	乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関との連携を図っている		
研修	研修計画・運営は適切か		研修内容の共有は出来ているが、保育に活かされていなかったことが今後の課題
	研修の成果を日常保育に活かし、乳幼児の育ちに反映できている		
施設・設備	施設内外・設備の安全点検を定期的に行っている		巧技台等遊具の点検・修繕を行った
	遊具・用具などを活用しやすいように、整理・保管をしている		
情報	子どもや保護者に関する個人情報を適正に扱っている		
	知り得た情報の守秘義務を果たしている		
家庭・地域社会	家庭との連携を図るよう努めている		関係機関との連携を図り、家庭との連携や保育の工夫が進められた
	関係機関と連携を図り、有効な対応に努めている		
	地域や保護者の意見を施設運営に反映している		
情報公開等	えんだより・くらすだより・ホームページ等で、施設の情報を発信している		
	苦情解決の体制作りはできている		

令和6年度 保育士自己評価

評価) A:よくできている
B:ほぼできている
C:あまりできていない

項目	内容	評価		
		A	B	C
保育理念・保育観	すべての子どもについて、一人一人の存在とその人権を尊重している	14	4	0
	子ども一人一人の特性や発達の課題に即した援助を行うようにしている	14	5	0
	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今その子に何が必要か見極め、それぞれにとって適切な援助をしている	13	6	0
	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮している	14	5	0
	日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしている	16	3	0
計画	保育園の方針、全体的な計画をもとにして、指導計画を作成している	10	7	0
	長期的な見通しをもった計画を立て、日々の評価、反省を生かした保育を実践している	8	10	0
	子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている	12	6	0
	担任間で話し合ってお互いの考えを理解した上で計画を立て、実践している	12	6	0
	月、週案などが、実際の子どもの姿、興味、関心にあっていたかという視点から自分の保育を評価・反省している	12	6	0
0歳児	家庭と連携を取りながら、一人一人の発達やその日の体調に合わせて、安心して心地よく過ごせるよう配慮している	4	1	0
	目の動き、泣き声、しぐさ、片言を受け止め、タイミングよくあたたかな応答的関わりをしている	4	1	0
	生活やあそびの中で、音、形、色、手触り等に気づかせて様々なものに触れさせている	3	1	1
	食事中は子どもの状態(眠い・泣いている等)や食べ物の大きさ・固さ、口の中の状態に気をつけ、誤嚥・窒息のないよう配慮している	5	0	0
	連絡ノートを活用する等して、保育園以外での子どもの様子を把握するように努めている	4	1	0
1・2歳児	子どもが甘えたり、思い通りにならず泣いたり、怒ったりする時には、その都度その子の気持ちを受け止め、個別対応の努力や工夫をしている	7	3	0
	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けや言葉がけをしながら、自分からしようとする気持ちを大切にしている	8	2	0

項目	内容	評価		
		A	B	C
1・2歳児	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるため、楽しい雰囲気でおいしく食べられることを第一に考えている	9	1	0
	子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしている	6	4	0
	子どもの目線に合わせて話を聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感するようにしている	8	2	0
	自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、穏やかに、具体的な短い言葉で語りかけている	5	5	0
3歳児以降	一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している	6	2	0
	せかす言葉や制止する言葉を不必要に使わず、発達過程や子どもの気持ちに合わせた柔軟な対応を心掛けている	2	6	0
	生活に必要な基本的な生活習慣や態度が身に付くよう保育している	8	0	0
	十分に身体を動かす気持ちよさを体験し、自ら身体を動かそうとする意欲が育つよう援助している	7	1	0
	友だちと共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている	3	5	0
	順番や約束を守るなど、決まりを守ることの大切さを、年齢に応じた分かりやすい言葉や態度で丁寧に知らせている	6	2	0
	子ども同士が自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づけるように援助や助言を行っている	8	0	0
	生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている	5	3	0
	身近な自然を通して、様々な発見や美しさや不思議さなどに気づくことが出来るような環境作りをしている	5	3	0
	園生活の中で、図形や数量、時間などに関心を持てるような環境構成に配慮している	4	4	0
	信頼できる相手に話したいという気持ちが発語を促すことを理解し、子どもの表情や姿を観察しながら、共感や代弁など、その場に適した言葉かけをしている	6	2	0
	子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している	7	1	0
	絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉の面白さに気づくよう心掛けている	7	1	0

項目	内容	評価		
		A	B	C
3歳児以降	音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、楽器に触れたりする楽しさを味わう機会を作っている	7	1	0
	一人一人の子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心掛けている	6	2	0
	様々な音、色、形、手触り、におい、味わいなど五感を刺激する活動を保育に取り入れている	5	3	0
配慮や支援を必要とする子ども達	障がいのない子どもも障がいのある子どもも、お互いの良さを感じ取るように保育の配慮をしている	11	5	0
	障がいのある子どもの保育について、園で話し合う機会を持ったり、子どもに合わせた個別の支援計画を立てている	9	5	0
	日常的に保護者との話し合いの場等設けて、保護者の気持ちの援助に心掛けている	7	8	0
行事	行事を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味を持つことを意識している	12	6	0
	子ども達が期待を持って行事に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意している	11	6	1
	行事が子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心掛けている	13	5	0
健康安全	子どもの体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむように努めている	18	1	0
	睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察する等、SIDS等への予防に努めている	17	2	0
	子どもが活動しやすいようにその都度、保育室の換気や温度湿度に配慮している	16	3	0
	園内の清掃がなされ、清潔が保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している	12	7	0
	園内外の衛生面、安全面に配慮し、遊び始める前に危険なものがないか確認している	13	6	0
	アレルギーによる除去食などの対応は、マニュアルに従い、誤食のないよう必ず複数で確認している	12	4	0
	ヒヤリハットを共有し、事故防止に努めている	13	6	0
食事	食事を通して子ども達が楽しく食べ、食べる意欲が育つよう工夫している	14	5	0

項目	内容	評価		
		A	B	C
食 事	乳幼児が身に付けておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	15	4	0
	栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている	12	5	1
	子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるよう心掛けている	4	2	4
	食事と健康とのつながりに興味・関心が持てるような機会を作るよう心掛けている	10	5	1
連 携	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている	7	10	1
	保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	15	3	0
	子育て相談を実施する際に連携すべき機関など(保健センター・児童相談所・家庭児童相談室・医療機関等)の機能について良く知っている	4	11	3
職 務	服装や身だしなみなど清潔感を心掛けている	14	5	0
	職員間で必要な報告・連絡・相談を行っている	17	2	0
	子どもの人権を尊重し、名前を呼び捨てで呼ぶなどせず、どの子にも公平な態度で接している	16	3	0
	子どもの個人情報を適切に扱い、園内で知り得た情報は守秘義務を遵守している	17	2	0
資 質 向 上	自分自身の言葉遣いや対振る舞いが、子どものモデルとなることを自覚しその向上に努めている	11	8	0
	園の内外における研修及び自己研鑽により、専門性を高める努力をしている	9	8	0
	研修の成果を日常の保育に活かし、乳幼児の育ちに反映させている	8	9	0
意見・改善点				

○年間で計画を立てているが、振り返ってみると、もう少し工夫が必要だった点が見えてきた。子ども達がのびのびとすごせるよう園の方針に即した長期的な計画を立て、それをクラス内だけではなく全職員で共有、理解、把握ができたなら理想的だと感じた。

○今回、

ひよこ中大クラスの担任として一年間を通して、より担任間での伝達の大切さを感じ、またいろんな保護者の方がいると感じた。園での行事が少ない分、各クラスでの様子を写真でもっと伝えていくことで、保護者の不安や気になる部分を減らしていけるのではと感じた。気になる子のケアに対しても園全体で考え対応し、その他の子どもへの負担や遊びにじっくり関わるなどの対応ができたと思う。

○子どもに対する声掛けや接し方は常に余裕を持ち、待つということを大切に組みこんできた。クラス全体で明確に決めていたわけではないので感覚のズレがあったかもしれない。具体的な場面を例に出して話し合うということをもっとできたらよかった。

○今年度は新入園児、在園児共に落ち着くまで時間がかかり、2分割ではなく保育士と1対2、1対6、2対8といった分け方のグループ別や中と大の担任の配置を入れ替える等、色々試していき3月に入り落ち着いてきたため、時間はかかるが子どもの思いを受けとめ個性や好きな事を生かす設定の工夫を続けていけたらと思う。下痢やアデノの症状があっても熱がなければ登園する家庭が多いため、感染症についてクラス懇談等でアプリの配信ではなく直接話す機会があると理解してもらえないのではないかと思った。

○個々の育ち

にあった関わりや環境を考えた時に、無理をした保育にはなっていないとしても、挑戦する場面はなかなか作り辛くなってきている。個々の育ちや安全など引き続き配慮しながらも、自分自身学びを深めて、変化ある楽しめる保育をしていきたい。

○子ども達の前やひとりひとりに声を掛ける際、「この言い方をしたら良くないかな?」「不適切かな?」などと少し考えてから話すことが増えたように思う。それでも、注意ばかりしてしまう日もあったりしたので、その分ささいなことでもほめたり認めていくようにしていった。来年度からは、色々なクラスに入る分、信頼関係もないので、子ども達に丁寧に接し、職員のことも気に掛けていきたいと思う。

○今年度は手足口病などの流行りものにかかることが多かった。流行し始めたら、よりこまめに空気の入替えをしたり、玩具の消毒（特に0、1歳児でよく使用する乳児用玩具など）を行うことで少しでも感染力が弱まるのではと感じた。

○支援が必要な家庭には、登降園時に、こまめに話をしたり、必要な時には助言したり、信頼関係を築くことが出来たと思う。研修では、どうしても家庭優先となってしまう、参加したかったキャリアアップ研修に参加出来なかったため、来年度は参加していきたい。子ども主体での保育であったり、子どもの気持ちに寄り添った保育の中での言葉の掛け方、雰囲気作り方であったりをもっと勉強していかななくてはと思った。

○保健センター

や児童相談所などの機関に関する知識が浅く、今後どのようなタイミングで子育て相談を実施するか分からないため理解を深めていきたい。

○個別の対応が必要な子を、クラス担任はもちろんだが、幼児クラス全体で協力し考え、関わることで、色々な考えや工夫を知ることができたり、担任だけで辛さを背負わず保育できるということを身を持って感じた1年だった。